

広報 N0368

# カナダ

1999

2/1号

か  
ん  
ど  
う

な  
が  
よ  
し

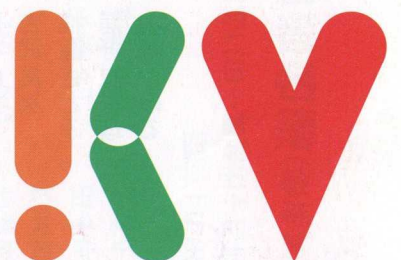
だ  
い  
す  
ぎ



99年元旦、日王山初日の出ハイキングにて

## ごあんない

- (P2~3) ……成人式
- (P4~7) ……まちのわだい
- (P8~9) ……こんにちは保健婦です
- (P10~11) ……みんなのひろば
- (P12~15) ……暮らしのインフォメーション



福岡県金田町



# まちのわだい my town TOPICS

あなたの身近な出来事、地区の話題など  
どしどしお寄せください。お待ちしております。  
連絡は、広報担当(☎22-0556)まで。



すばらしい日の出でした



下山後のお楽しみ

## 初日の出

元日早朝、午前5時45分に、ふれあい塾に集まった家族連れや、老若男女約200人が集まり、日王山初日の出ハイキングが行われました。今年も、晴天に恵まれ気温もあたたかく、午前6時の暗闇の中、山頂へ向けて懐中電灯を片手に、リュックの中にはカメラを入れ出発しました。山頂へたどり着いたのは、まだ薄暗い7時前、待つこと15分、20分少々、辺りはだんだん明るくなり、朝焼けに輝きはじめた山々より顔を出した太陽はまぶしく、今年の明るい幕開けを予感させるほど輝いていました。

山頂では、記念撮影を終えたあと、カメラによる日の出の記念撮影や、家族の記念写真を撮る人などにご案内しました。下山後には、ふれあい塾を支える会のみなさんによるぜんざいや、かつほう酒などがふるまわれ、初日の出くじ抽選会が行われたあと、みなさんにゆっくりとくつろいでいただきました。町内外から集まったみなさん、大変満足されていただけの様子で、「来年も家族連れで、ぜひ、参加したい」と、好評でした。また、参加したことがないという方がいらっしやいましたら、来年こそは、いかがでしょうか!!

## 独り暮らしのお年寄りに

(手打ちソバを)



真剣に仕上げます

12月29日に、独り暮らしをされているお年寄りの方に食べてもらおうと、金田町総合会館で、ふれあい塾を支える会と金田町民生児童委員のみなさんと役場職員の30数人が集まり、手打ちによるソバ打ちが行われました。なかには、ソバ打ちに手慣れた方もいれば、今回が初めてという方もいましたが、支える会のソバ打ち名人の指導により、きれいなソバが打ち上がり、できあがったソバは、翌日に独居老人172人宅に、配られました。

## 消防出初式



福岡県知事表彰  
永年勤続功労賞を  
代表で受け取る  
植高信春さん

平成11年下田川四カ町連合消防出初式が、金田町ふれあいスポーツ公園多目的グラウンドで、1月10日に行われました。

式は、下田川四カ町より490人が参加して行われ、人員服装点検、機械器具の点検、分団ごとに分かれての行進などが行われたあと、表彰状の授与がありました。表彰された方はつぎのとおりです。

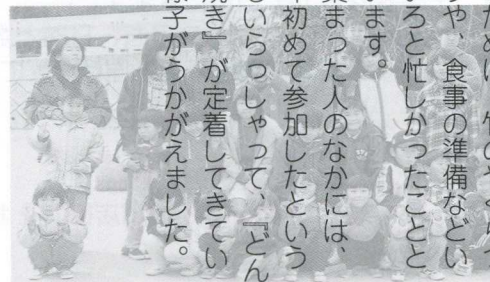
20年	植高信春	永年勤続功労賞	植高信春	永末 薫	益野秀文
15年	和田 等	福岡県消防協会会長表彰	植高信春	永末 薫	益野秀文
10年	平元 積	優良消防団員表彰	堀池弘幸	嵐田英志	森野和彦
5年	野田敏行	優良消防団員表彰	福田豊徳	植高直道	竹宗進造
20年	永末 薫	永年勤続消防団員表彰	相原 勲	植高信春	植高信春
25年	浦野市郎	親子消防団員表彰	田川郡消防支部連合会長表彰	優良消防団員表彰	優良消防団員表彰
30年	吉田武人	和田 等	若林岩雄	若林友克	若林友克
35年	内野長二	和田 等	若林岩雄	若林友克	若林友克
45年	桑野裕俊	和田 等	若林岩雄	若林友克	若林友克
町長表彰	森野秋人	町長表彰	堀田博次	森野秋人	森野秋人
田村一人	矢野義隆	田村一人	矢野義隆	矢野幸市	矢野幸市
平島時秀	桑野直規	平島時秀	桑野直規	益野秀文	益野秀文
荒木直人	益野秀文	荒木直人	益野秀文	益野秀文	益野秀文

## どんど焼き



1年間の無病息災を祈願する『どんど焼き』が、1月17日に神崎一地区と福丸地区で、それぞれの公民館で行われました。

神崎一地区では朝から、子ども会や地域のみなさんが集まり餅つきが行われ、昼食をしたあとに、『どんど焼き』が行われました。また、福丸地区では、夕刻5時から1年間の無病息災を祈願し、『どんど焼き』がおこなわれ、地域のみなさん



神崎一地区では朝から、子ども会や地域のみなさんが集まり餅つきが行われ、昼食をしたあとに、『どんど焼き』が行われました。また、福丸地区では、夕刻5時から1年間の無病息災を祈願し、『どんど焼き』がおこなわれ、地域のみなさん

# 紹介街

21軒目

このコーナーは、町の商店を紹介して、知ってためになる暮らしのワンポイントや、お得なサービスを提供していただくコーナーです。



店主の田島英彦さんにお話を伺いました。

## ●藤村酒店のモットーは？

地域に密着した経営を行うこと。それが藤村酒店のモットーです。

当店のある赤池町上野は、スーパーまで車で10分、歩くと30分はかかります。どんなに車社会が発達したとはいえ、ちょっとした食料品や飲み物をいちいち車に乗って買いに行くのは大変なのです。

縁あって当店の店主になりましたが、藤村酒店も私で3代目。お客様も代々にわたって…と言う会社やご家庭がほとんどです。大々的な品揃えという訳にはいきませんが、日常のちょっとした食料品・酒類やジュース類・たばこ・雑貨など、地域の方にとって便利な店であり続けたいと思っています。

## ●普段はどのような仕事を？

毎朝5時に市場に仕入れに行きます。ここ半年ほど、5歳になる次女が毎朝付いてくるので張り合いがあります。8時に帰ってきて午前中はお得意さんへの納品。午後からは店舗整理・自販機の補充を主に。午後の5時頃からお仕事帰りの常連さんが角打ちをして行かれます。

その他ビールやジュースの配達など、だいたい一日中走り回っていますね。

## ●業界の流れは？

酒類販売は、ディスカウントかコンビニかの二つの方向に分かれています。酒類の出荷量自体はあま

## 今月は赤池町（東金田）の「藤村酒店」さんをご紹介します。

り景気に左右されないのですが、競争激化による経費増大で、利益率はどの店も大幅に落ちています。

とはいえ、価格なり営業時間なりでお客様に一層のサービスを提供するのは商売の本道。当店でも近い内にコンビニ化をはかり、より利用しやすい業態にしようと考えています。

## ●プライベートの時には何を？

ソフトボール・ゴルフ・釣りと趣味は多いのですが、今のところは元気な子供達に振り回されて家族サービスで手一杯です。7歳を先頭に娘三人。2月には4人目の娘が生まれるので、こうなったら女子バレーのチームができるまで頑張ろうと家内と冗談を言ったばかりです。

生まれ故郷である金田町で、商工会青年部の他、保育園の父母の会や小学校のPTAなどでも活動させていただいています。

## ●知って得するワンポイントテクニックを

ビールは空気の乾燥する冬こそが美味しいと言う人もいます。寒い時期ではありますが、部屋を暖かくしてビールの爽快なのごしを楽しんではいかがでしょうか？

その時に、例えば上野焼などの陶器のピアカップを使うと、泡立ちがきめ細かく、もっと美味しく楽しむことができますよ。

## ●読者に何かサービスを

ご法事やパーティなどイベントごとには飲み物は欠かせません。とはいえいろんな準備で忙しい時に買い出しも大変。そこで当店では、いつでもどこでも宅配をさせていただきます。

ビールでもジュースでも、日時と数量をご指示下さい。ご指定の時間帯にお届けさせていただきます。

今回は連載・紹介街の裏話、  
「making of 紹介街」をお届けします。

## まちの伝説 むかしばなし

谷茂平 その三

田川に中央の大手資本が入るようになった明治中期以降、経験のない坑主や銀主が炭坑の経営者になった場合、石炭採掘の技術と経験を持ち坑夫を統率する力のある者を雇い入れて一切の運営を任せていた。この任された者を大頭領と云った。

大頭領には俠客型と実務型の者、その両面を持った者が居て草創期には必要な人であった。

大頭領は坑夫を住まわせる納屋の運営を行い自己の収入増もはかっていた。補佐役に副頭領を置き、仕事の分担上、坑内頭領、棹取頭領、水方頭領を置いて石炭採掘の仕事をしていた。独身の者は大納屋に、家族持ちは小納屋に住まわせて、現場で働く全ての労働者を支配下に置き、その生活権まで握っていた。

頭領が坑夫に対すときは、力と賞禄、豪放不羈、伊達男として対処していた。

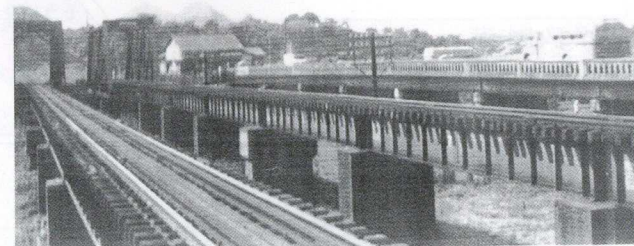
頭領が坑夫を呼び寄せるときは頭領の徳を持って呼び寄せ、不況で解散するときには頭領の威力で去らせる。新しい炭坑が出来て坑夫を募集しても集まらず、又、解散しても坑夫がなんくせを付けて去らない時は恥辱となることから必然的に伊達男、仁侠の世界になってくる。

明治三十一年十二月、香春の「フイゴ祭」のとき、糸飛炭坑と中津原炭坑の納屋頭や坑夫三十数人が乱闘する事件が発生した。双方の坑夫が鉄砲、刀、竹槍などの凶器を持ち、ダイナマイトを爆発させるなどの不穏な状態が続いた。

## 大頭領と角助・茂平の兄弟

警官八十数人が鎮圧に向かったが聞き入れず、暴徒と化した坑夫は沈静しなかった。

警官の呼びかけにも応じなかった暴徒を鎮めたのは、明治赤池採炭坑の大頭領・松岡陸平と田川採炭坑の大頭領・藤井多吉であった。このときの様子を「筑豊鉱山誌」には「田川は一般坑夫の風俗が凶暴にして、喧嘩、闘争なき日はなく、警察権も及ぶ能はざる事多し」と記している。



当時の鉄道の様子

谷茂平の実兄・角助は父の茂一や茂平が経営する小松が浦炭坑、赤池炭坑、田川採炭会社な

どで大頭領をするかたわら五十人以上の頭領を養成した豪の者であった。

「田川採炭坑」の前身である「田川採炭会社」は後藤寺の大藪から堅坑を掘り、田川チリメン八尺を目指して掘り進んでいたが目的のチリメン八尺には達せず、社長の福島良助は頭をいためていた。大阪の大株主・藤田組の社長・藤田伝三郎の意向を受けた桑原政が現場指揮を取っていた。福島良助と桑原政が協議を重ね、会社を再建するには新坑脈の四尺炭層を発見する以外に生き残れる道はないと判断し、その作業を神田村の谷角助に任せた。

角助は今までの経験と感を頼りに懸命な努力を続け新四尺炭層を発見、廃業寸前に瀕していた「田川採炭会社」を、一日の出炭量が三十三トンにもなる優秀坑に蘇らせた。

この「田川採炭会社」が「田川採炭坑」↓「田川採炭組」と社名を変え、明治三十三年三月、三井鉱山が買収して三井田川採炭所になった炭坑である。

(田川市史・日本石炭読本より)寄稿 池長一利